

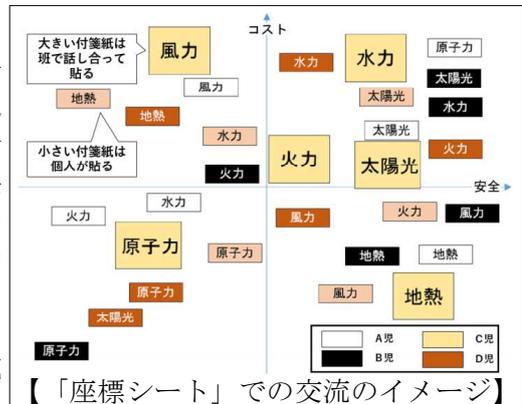
実践記録（小4・社会）

1 ねらい

自分の考えをもち、交流活動を通して自分の考えを深めることができるようにする。

2 手立て

6つの発電方法について、安全、コスト、環境、効率の4観点から2観点を選び、縦軸、横軸とする「座標シート」にまとめ、交流する。それぞれの発電方法が「座標シート」のどの辺りに位置するのか、班の児童4人が小さい付箋紙に発電方法を書いて自分の考えを貼る。その後、それぞれの発電方法の位置を班の中でまとめて、大きい付箋紙に書いて貼る。この場合、4人の付箋紙の間接点をとったり、多数決をしたりするわけではなく、4人とも納得できる場所に貼るようにする。交流活動が終わったら、話し合いの中で出た友達の考えも参考にして、自分が一番よいと思う発電方法を決め、その理由も書く。



3 実践の様子

交流活動の前に、どの発電方法が良いか比べるための観点を全体で確認した。調べ学習の資料の中に、安全やコスト、環境、効率などについて示す写真やグラフがあったので、児童からその4観点が挙げられた。その中から2観点を「座標シート」の縦軸、横軸にするように伝えた。

まず各児童が小さい付箋紙に発電方法を書いて「座標シート」に貼る活動では、縦軸、横軸の観点を手掛かりに付箋紙を貼り、どの児童も自分の考えを示すことができた。しかし、前時までの調べ学習で水力発電のデメリットを十分に調べられなかったため、水力発電をどの観点でも他の発電方法より良い位置に貼る児童が多かった。

その後、それぞれの発電方法の座標シートの位置を班の中で話し合う活動では、小さい付箋紙の位置を手掛かりにして話し合いをスムーズに行うことができていた。それぞれの児童が、発電方法に対するイメージだけではなく、調べ学習で得たメリット、デメリットなどの情報を基にして話し合うことができた。話し合いの時間は少し長めにとったのだが、それでも1つの発電方法について最後まで話し合いが白熱して、付箋紙を貼る位置が決まらなかった班もあった。

いちばんよいと思う発電方法を選んでその理由も書く活動では、事前に考えていたものとは異なる発電方法を選んでいる児童が多かった。前回は水力発電を選んでいて今回は太陽光発電を選んだ児童は「最初は『太陽光発電は安全ではない』と思っていたけど、頑丈な家なら安全だと言われて、お金もかからないので1位にした。」と記述していた。前回は今回も水力発電を選んだ児童は、「『水力発電は安全だけど自然破壊になる』と最初は思っていたが、他の発電方法もあまり安全ではなく、結局水力発電は自然破壊してしまうけど一番安全だから選んだ。」と記述しており、はじめの考えと比べて広がりや深まりが見られた。ただ、これらの児童のように理由に考えの深まりが見られる児童ばかりではなく、最初も本時も「水力発電は二酸化炭素が出ないから。」と記述に変化が見られない児童もいた。

4 成果と課題（成果…○、課題…●）

- それぞれの発電方法についてメリット、デメリットを調べることで、なぜその発電方法がよいと思うのか自分の考えを明確にもつことができた。
- 座標軸を使ったり、指標を明確にしたりしたことで、話し合いの論点がつかみやすく、論点にそった話し合いにすることができ、互いの意見を交流していく中で、自分の考えを深めることができた。
- 発電方法というテーマが児童にあまりなじみがなく、調べ学習によって得たそれぞれの発電方法のメリットやデメリットが、自分たちの生活にどれほどの影響を与えるかを実感できない児童が多かった。